



いわて医療通信

【薬の正しい付き合いかた】

② 高齢者での薬害増加 vol. 1

前は飲む薬が増えると

ず、むしろ「異物」として

することができなくなった

てしまい、体に溜まってし

薬の害(薬害)も増えると

認識されます。つまり、体

りします。

まうのです。

今回は、なぜ高齢者になる

にとつては「毒」なのです。

もう1つ大切な役割を

肝臓も腎臓も生まれてか

と薬の害が増えるのかとい

毒が体に入りこむと私たち

担っているのが「腎臓」で

らずと働いています。例

うことについて2回に分け

の体は「防衛機能」が働き、毒

す。「肝心要」とか「肝腎要」

えば、皆さんが長い距離を

てお話しします。

から体を守ろうとします。

とも言いますね。本来は

全速力で走ると疲れて休み

私たちが生きていくため

る働きを担っているのが

「肝腎要」と腎が用いられ

たくなりますね。けれども

うことはよくわかっていま

「肝臓」です。高齢者になる

「当用漢字表」制定で「腎」

いって休むことはできませ

す。同じように薬も病気を

と肝臓は十分な働きができ

が使用できず、「心」に書き

ん。疲れないようにゆっく

治すために必要なものだと

酒に弱くなったな」という

双方用いられています。腎

り働いて役割を果た

皆さんはお考えでしょう。

経験がある方もいらっしゃる

臓は老廃物をおしこ

高年齢になるとその役割もだ

けれども私たちの体からす

るでしょう。肝臓での十分

て体の外に排泄します。腎

んだんに弱ってきたと感じ

ると、元々体を持っていた

な働きができなくなると、

臓も肝臓と同じように高

るのです。

ものではないので、薬は体

薬を分解する時間がかか

者になると十分な働きが

地域医療薬学分野

に必要なものとは認識され

たり、場合によっては分解

きなくなり、薬を体の外に

排泄するのに時間がかか

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....